

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学 終了報告書

所属(本学)	大学院 理工学研究科 建築学専攻		
現在の学年	修士 3年		
留学先国	オーストリア共和国	留学先大学	ウィーン工科大学
留学期間	2016年8月21日～2017年6月30日		

① 留学先大学(機関)の概略

オーストリア・ウィーンにある Technische Universität Wien(ウィーン工科大学)の建築学部へ、1年間の派遣交換留学生として留学した。

② 留学前の準備

出願に Academic Advisor の受入れ証明があることが望ましいということだったので、ウィーン工科大学の卒業生の友人に相談して教授を紹介してもらった。(学生が多いので教授と学生が関わる機会はあまり無いが、メールなどですぐにコンタクトを取るのが普通になっている点では、より距離が近いといえるのではないかと思った。) 東工大の指導教員の教授に相談したところ、ウィーンで木造関係の先生につくのがよいのではという話になり、伝統木造に詳しい Klaus Zwerger 先生にお世話になった。この受入証明に関しては、「受け入れしてくれますか?」というメールに対して了承の意が示された先方からのメールさえあればよいようである。ちなみにウィーン工科大にいる先生となんのコンネクションもない場合でも、ウィーン工科大には「JASEC」という、日本からウィーン工科大学、ウィーン工科大学から日本に留学する学生をサポートする機関があり、その職員の方に自分の興味関心について相談すれば、適切な先生を紹介してくれる。とても親身になってくれるので、迷ったら相談することをおすすめする。正直留学前に向こうの学校の様子を把握するすべはほとんどなかった。数年前には東工大とウィーン工科大の間にも交換留学の行き来があったようだが、私の前に留学した先輩はまず居なかったためである。代わりにウィーン工科大から東工大に留学した学生は居たので話を聞いたが、なにしろ学校が大きいし、エラスムスや交換留学生というのは向こうの学生にとったら日常的に関わる存在でもないらしく、システムの違いを把握している人はまずいない。学校の組織形態もかなり違うので(日本みたいに研究室という概念がない!など)、なんだかよくわからないまま留学することになった。ちなみに現地で勉強した学生からは、デザインスタジオ(建築学生しか取らない授業)を受講するのが激戦で、授業登録も熾烈な争いで大変だと散々脅されたが、交換留学生の場合かなり優遇されておりほとんどの場合希望のスタジオをとれるので、その心配することはない。しかしこういったシステムもほとんど向こうに行っただけからしかわからないので、出発前はかなり不安を抱えることと思う。

③ 留学中の勉学・研究

前期はデザインスタジオを1つ、語学学校で授業を週2回、後期はデザインスタジオと座学の授業を1つ受講した。デザインスタジオを取るだけでかなり忙しくなると聞いていたので、余裕を持って生活するため座学の授業はあまりとらなかった。もともと前期はあと2つ座学の授業を取る気でおり、「If required in English」とシラバスに書かれた授業に行ったが、初回の授業で今期はどちらもドイツ語でやると言われ、時間の無駄を感じてしまい断念した。英語の授業も面白そうなものがあるタイミングもあるのかもしれないが、私は興味を持てなかったので取らなかった。しかし噂の通りデザインスタジオは週2回でエスキス(授業)があったのでとても忙しく、留学前半の記憶はほとんどがデザインスタジオに占められるという結果になった。後半は、このままでは留学のすべてがデザインスタジオの記憶になってしまうという危機感から、最終的に集中して現地に建てに行くが、その前はあまり授業がないスタジオを取った。前半はこつこつ机に向かい設計するもの、後半は実際に自分たちで建てるもの、という全く違うスタジオを経験できたので、結果的にメリハリがあってよかったとは思っている。後期に取った座学は、Academic Advisor の先生の授業で、先生が訪れた世界中の伝統木造

についての講義だった。ドイツ語だったためほとんど先生の言ったことは理解しなかったが、写真家としても活動されている先生だったのでスライドの写真がとても美しく、自分が全く知らない集落の存在も知れたのでそれなりに意義はあった。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

同タイミングでヨーロッパに留学に行っていた友人と旅行したり、一人で旅行したり、オーストリアでできた友人のホームタウンを訪れたり、なかなか旅行をする機会は多く取れたのではないと思う。建築を勉強している以上、実地に行かないとつかめないものも多いので、旅行を沢山できたことは人生のなかでかなりの財産になったと感じている。(訪れた都市:ブダペスト・センテンドレ(ハンガリー)、スロバキアの木造建築群、ヘルシンキ(フィンランド)、ヴェネチア・ミラノ・コモ・ヴェローナ(イタリア)、ミュンヘン・シュトゥットガルト・ケルン・デュッセルドルフ・フランクフルト・ダルムシュタット・ハンブルグ・コンスタンツ(ドイツ)、リンツ・グラーツ・ザルツブルグ・ムレック・ブレゲンツ(オーストリア)、プラハ・ブルノ・チェスキークルムロフ(チェコ)、リュブリャナ(スロベニア)、アテネ・サントリーニ・ミコノス(ギリシャ)、バルセロナ・マドリッド・トレド・マヨルカ(スペイン)、リスボン・ポルト(ポルトガル)、ブリュッセル(ベルギー)、チューリッヒ・バーゼル(スイス)、パリ・ロンシャン(フランス))

また、東工大出身で、オーストリア人と結婚しウィーンで事務所をやられている先輩の事務所でインターンもした。主にコンペティション提出前の助っ人として行っていたが、ウィーンの街の現況を少し教えてもらったり、事務所の労働環境を垣間見れたりして、面白かった。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

帰ってきて、東工大に留学している友達としゃべったら、「英語うまくなったね！」と言われた。

⑥ 留学費用

奨学金はトビタテのものを取っていたので月16万円+渡航費20万円貰っていた。これがなかったら留学はとても厳しいものになっていたと思う。とても助かった。渡航費、生活費、住居費、保険料、ほぼすべてこの奨学金で賄った。渡航費約15万、生活費月5万ほど、雑費2万程度、住居費4万ほどで、残りのお金で初期費用(かなりかかった。50万くらい?)や旅行費を捻出していた。

⑦ 留学先での住居

大学付属の寮は無いが、ウィーンにある大学に通う学生が通う用の寮を提供している会社がある。そのうちウィーン工科大学からはOeADという会社を勧められるので、私は最初の半期そこで契約して寮を見つけた。しかし申し込んだ時期が遅かったのか、第5希望まで入力したもののそれ以外の寮をあてがわれた。OeADに登録したらもちろん住むところは見つかるが、寮の情報を見るのにDepositとして10万払わなければならなかったり、なんとなくうさんくさとセコさが感じられた上、あてがわれた寮の立地がよくなかった(地下鉄U3のSimmering駅すぐの物件)だったため全くだいい印象を持っていない。家賃も他の寮会社より高いという噂を聞いた。私はそこに月481€払っていた。

後期はシェアハウス(WGとよばれる)を探す気でいたが、丁度前半で同じデザインスタジオを取っていた友人が次のセメスターにハンブルクへエラスムスで行くとのことだったので、その子の部屋に代わりに1セメスター住むことになった。私が日本に帰ってくると同時に彼女がエラスムスを終えてウィーンに帰ってくるというスケジュールだったので、とても幸運なパーフェクトな契約だったと思う。オーストリア人の女の子2人とシェアしていて、月350€払っていた。場所はWaringer strasse/Volksoper近くの18区で、前半に住んでいたところとは打って変わってそこそこ古い美しい街並みの残る住みやすい地区だった。中心の旧市街を挟んで丁度ウィーンの反対側に引っ越したことになるので、2つの雰囲気を経験できたことになって、途中で住居を変えたのはなかなかよい選択だったと思っている。

⑧ 留学先での語学状況

授業はほとんどドイツ語である。私はまったくドイツ語をやらずにいったので、ドイツ語の授業を取るという選択肢はほぼなかった。オーストリア周辺諸国からドイツ語を勉強してウィーン工科大に来ている友人も非常に多く、彼らが口を揃えて言っていたのは、通常の入学要件になっているドイツ語 B2 レベルを取得してから授業を受けても、全く意味不明だったということであった。つまり付け焼き刃なドイツ語では結局ドイツ語で行われる授業に参加するのはなかなか難しい。

生活上は、皆驚くほど一人残らず英語を喋るので全く問題ない。むしろドイツ語もやってきていないのに、私の英語が足りなくて恥ずかしい思いをすることばかりだった。それでも北欧の人に比べれば、英語に対して彼らも苦手意識があるらしく、私は英語がうまくないから…とぺらぺら恥じらいながら言われてさらに恥ずかしい思いをすることが非常に多かった。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

単位認定は行わない。在学期間は、M2 の真ん中で1年間留学したので、1年半延長することになる。

⑩ 就職活動

留学先では就職活動は行っていない。帰国後ポートフォリオを改めて用意して、通常通りに日本で就職活動をする予定。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

チャンスがあるなら行かないより行ったほうがいい。日本がいかに変で閉じた国で、ステレオタイプで見られているのかよくわかる。